

# 羽田空港の航空機騒音問題において…4,500フィートに高度引き上げ!!

## 4月2日本運用開始!!《南風好天時における北側ルート》

昨年3月6日から4,000フィートから4,500フィートへの高度引き上げ試行運転が実施。その結果、本運用が決定!!

前号に引き続き、羽田空港の航空機騒音について、総合企画水道常任委員会において質問をいたしました。

【ほんま進】  
羽田空港の航空機騒音については、県民から多くの苦情が寄せられており、県は、国土交通省に対して騒音軽減を求めている。

それに対して、国土交通省では、騒音軽減策の一つとして、南風好天時の飛行ルートへの高度引き上げに取り組んでいるが、北側ルートへの高度引き上げの試行運用については、昨年3月6日から開始され、今春には本運用に移行するとのことであるが、北側ルートへの高度引き上げの状況についてどのようになっているのか、まずは確認したい。

空港地域振興課長から南風好天時における北側ルートについては、昨年3月6日から4,500フィートへの高度引き上げにより試行運用が実施されています。

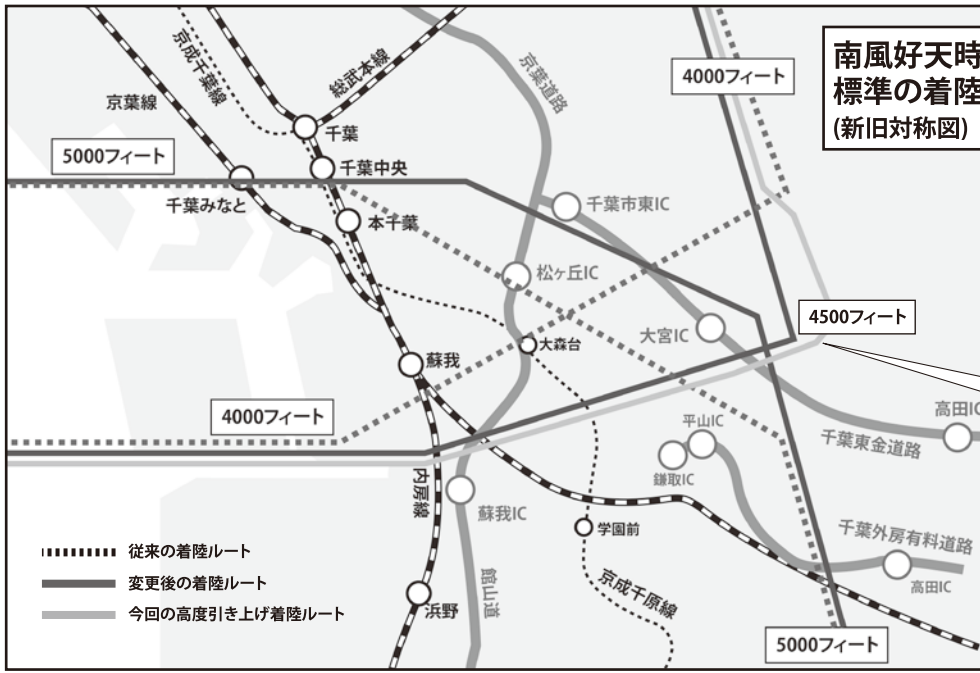
国土交通省によれば、試行運用により技術面、安全面の検証を終え、問題がないことから、今年の4月2日に本運用を開始することです。

【ほんま進】  
北側ルートへの高度引き上げの本運用が4月2日からであることは分かりました。しかし、問題がなければ本運用になるというのには当然であり、本運用により、更に高度を引き上げる訳ではない。

そこで何が、試行運用から本運用に移行するのが昨年3月から一年以上かかっており、あまりに遅いと思うがどうか。また、更なる騒音軽減に向けた取り組みはどうなるのか、伺いた

空港地域振興課長から

国土交通省からは、昨年の連絡協議会において、北側ルートの上を南側ルートが通過し、交差することから、北側ルートへの高度引き上げには、技術面、安全面において困難性を有しており、試行運用には1年程度の検証が必要との説明がありました。



国土交通省からは、昨年の連絡協議会において、北側ルートの上を南側ルートが通過し、交差することから、北側ルートへの高度引き上げには、技術面、安全面において困難性を有しており、試行運用には1年程度の検証が必要との説明がありました。

【ほんま進】  
北側ルートへの高度引き上げには、技術面や安全面において、難しい点があり、検証に時間を要したことはわかった。しかしながら、騒音影響を受けている飛行ルートに住民は、騒音軽減の早期実現を求めている。首都圏全体での騒音分担を含む更なる騒音軽減に向け、国に強く働きかけてもらいたい。

### 千葉の特性を生かした I-R 導入検討基礎調査を実施!!

総合企画水道常任委員会において、I-R について質問をいたしました。

【ほんま進】  
I-R 導入については、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて大いに機運が高まり、平成25年12月に国会においても「I-R 推進法案」が提出され、可決・成立することが見込まれておりました。

昨年末の衆議院解散に伴い、同法案は残念ながら廃案となりましたが、国のI-R 議論においては、改めて現在開会中の通常国会に提出し、今度こそ成立させようという意向を表明しています。

このように、I-R 導入に向けた機運は決して衰えておりません。

このような状況の中、県がI-R 導入を検討するため本年度、千葉の特性を生かしたI-R 導入検討基礎調査を行ったことは、大変喜ばしいことであると、本調査の内容について、

もう少し詳しく教えていたいただきたいが、本調査では、千葉の特性を生かし、どのようなI-R のパターンを示したのか。

【ほんま進】  
政策企画課長から  
I-R 導入の検討にあたっては、地域の特性を生かした具体的なI-R 施設の検討が欠かせないことから、本調査では、千葉の特性を生かしたI-R のパターンや想定される施設等を整理しています。

具体的には、日本の玄関口となる成田国際空港等の特性を生かして、外国人の関心の高い日本の文化・歴史とのふれあいや、マンガ、アニメなどのクールジャパンの体感をテーマとして、集客が期待できる施設イメージを示しています。

また、首都東京に隣接し、多くの大型商業施設や観光資源等を有しているという本県の特性を生かして、国際会議場等のMICE機能の強化や、カジノ、劇場などのエンターテイメント充

実の観点から、多くの国内の利用者が見込まれる施設のイメージをしめしています。

【ほんま進】  
I-R の調査において、単に海外の事例や、それぞれの効果・影響を整理しただけでは不十分であり、今回県が行った調査は、千葉の特性を生かしたパターンを示すとともに、想定される施設や導入にあたっての課題などが整理されており、具体的なイメージがつかみやすいものとなっております。

しかし、大事なことは、今後I-R 導入に向けた、より具体的な検討が進められていくことであり、そのためにも市町村に対し、本報告書の内容を十分に説明していくことが重要であると思

【ほんま進】  
この調査報告書の内容について、市町村に対しどのように説明したのか。政策企画課長から調査報告書については、

放射線物質の濃度が前回数値と同レベル!! 数値の下げ止まりが心配。  
前号に引き続き、汚泥の放射性物質について、総合企画水道常任委員会において質問をいたしました。

【ほんま進】  
明日で震災から丸4年である。各浄水場での汚泥の放射性物質の濃度は4年間経って、落ちているかどうか、数字を発表してもらいたい。

浄水課長から  
現在最新の数値ですが、3月4日に採取して測定しました。3月4日現在の測定結果は、柏井浄水場東側施設は1キログラムあたり167ベクレル、柏井浄水場西側施設が116ベクレ

体験型水道技術研修 今後の人材確保と育成が重要。  
体験型水道技術研修について総合企画水道常任委員会において質問をいたしました。

【ほんま進】  
平成27年度当初予算案に、体験型水道技術研修が盛り込まれているが、その具体的な内容を教えてもらいたい。計画課長から  
体験型技術研修は、これまで新人職員を対象に、漏水調査技術や仕切弁操作技術のうち、管路に係る基礎的部分を実施してきました。平成27年度は、対象者を中堅技術職員まで広げ、管路部門では、大口径管路の接合実習など、浄水部門では、ポンプの分解・組立やシミュレーターを用いた運

転実習など、より実践的で高度な技術の習得を目指した体験型研修を行いたいと考えています。

【ほんま進 要望】  
今後、管路の耐震化や、ちば野菊の里浄水場の建設などが本格化する中で、高い技術力を維持することが必要となると思うので、こうした研修をしっかり取り入れた上で、人材確保と育成にしっかり取り組んで

本年1月に県内の全市町村に対して送付するとともに、調査結果に関する説明会を開催し、8つの市町村が参加したところです。

今後、本報告書で示した経済効果や地域への影響などを参考に、市町村のまちづくりの方向性を踏まえ、I-R の導入について十分に議論されるよう、説明いたしました。

県としても、市町村から要望や相談があれば、個別に話を伺い説明してまいります。

【ほんま進 要望】  
I-R 導入検討基礎調査については、一部報道で取り上げていただきましたが、県は今調査を取りまとめたことではなく、一区切りとするのではなく、平成27年度も引き続き、I-R 導入に向けて積極的に動いていただき、特にI-R 導入に積極的な市町村に対しては、県として全面的に協力するようお願いしたい。

また、報道によると、他県で有力な候補があるようですが、そこに決定した訳ではないので、県としても積極的にI-R 導入に向けて動いていただきたい。